

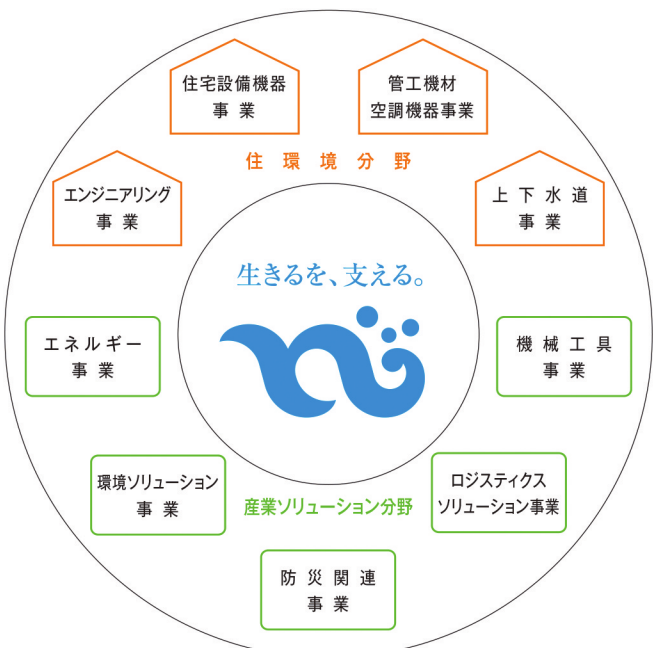
特別対談

世界に挑む 強い組織とは

ラグビー日本代表 ヤマハ発動機ジュビロ **五郎丸歩氏** × ナカシマ 代表取締役社長 **中島誠一郎**



ナカシマの事業領域



ナカシマは「水・空気・環境」に関わるライフラインの総合会社。住環境と産業ソリューションを二本柱に、トータルで成長を目指す。「生きるを、支える。」をスローガンに、ライフラインのインテグレーターとして、社会貢献性の高い事業を展開している。

本年創業70周年を迎えるライフラインの総合会社ナカシマ(兵庫県姫路市)。同社を率いる中島誠一郎社長は、学生時代にラグビー部に在籍し、今も強豪の六甲クラブ(クラブチーム)の理事長を務めるラグーマンだ。組織力が試されるラグビーと企業経営には共通項が多い。そこで今回、大学の先輩後輩という旧知の仲である中島社長とラグビー日本代表の五郎丸歩選手に、世界に挑む強い組織とはというテーマで語り合ってもらった。

勝ちを取りにいかなければ歴史を変えることは不可能

——ラグビーと経営の共通点として「選択」「決断」「多様性」などが挙げられます。南アフリカ戦における「選択」には驚きました。

五郎丸 最後になぜペナルティーキック(PK)ではなくスクラムを選択したのかとよく聞かれますが、PKで同点狙うのではなく、スクラムからトライを狙うことで勝ちを取ろうとしたのです。引き分けではなく勝たなければ、歴史は変わりません。
中島 ラグビーは瞬時に攻守が入り替

ポートフォリオを大切にそれぞれ役割を果たすこと

——五郎丸さんにラグビーの魅力と今後の抱負を伺いたいと思います。

五郎丸 ラグビーの魅力は何といっても「多様性」ですね。どんな体つき、どんな性格でも、適材適所のポジションがあり、活躍の場があります。ラグビーがチームになり、多様な個性を持った選手たちが、テレビなどに出たりしていますが、身近に感じていただけるのではないかと思えます。試合が終わった後にファンと選手が交流できるという身近さも、ラグビーのいいところです。

——中島社長にはラグビーから得るヒントと今後の抱負を伺います。

中島 日本代表が結果を出したように、我々もこれからの成果を積み重ねていきたい。私たちに大きな夢があります。例えば水の分野なら水源確保から水供給インフラの維持・運営、家庭での給排水衛生の供給、上下水道施設の建設・管理までを行う。既に、水の土流から下流までの全てのプロセスにおいて、実践的なノウハウを積み重ねてきています。ナカシマは、水と空気、エネルギーを含めたインフラをトータルでインテグレートする唯一無二の存在となることを目標に掲げています。

わるカオスのスポーツなので、そのついでに選手が選択と決断をしなければなりません。トップダウンでなく、選手の判断で勝ちに執着した日本代表の成果といえるでしょう。ビジネスも同じで、現場の人間が自ら考え判断できる強い個の集合体であることが大事です。

五郎丸 また一方でミスは必ず起きます。そのミスを早くリカバーする能力を持つチームが強いチームです。世界でトップクラスのチームは、リダーがミスを修正する能力が高いため、好不調の波がありません。

中島 勝てる組織にはビジョンがあり、

メンバーはそれを理解し個人の目標に落とし込んでいきます。そして個人がコミュニケーション能力を必要としないコミュニケーションです。だからこそミスの修正能力も高い。

——外国人が代表に在るといって多様性もラグビーの特徴ですね。

五郎丸 日本代表にも外国人選手がいますが、彼らは君が代の意味を理解し、歌うことができます。日の丸を背負って戦っているという自覚があるのです。今回のワールドカップを戦って感じたのは、国境で区切らず、その国でプレーしている選手はその国の代表になれるというのは、ごく自然なことだということです。ラグビーは理想的な形をしていると思います。

中島 当社のキーワードもまさにその「人材の多様性」です。色々な個性を持つ人材が集まっています。生物の世界もそうですが種類が多いほど勝ち残る可能性が高いのです。国籍・性別などに関係なく、多様な人材を活用していくことを考えています。

ために常に変化を続ける必要があります。新たに食品事業と電力の販売も始めました。新規事業を起すのはプレッシャーになりますが、挑戦しない限りチャンスは生まれないです。多様な事業を展開し、ポートフォリオを大切に、それぞれが役割を果たしながら企業として一つの方向に向かう。これはラグビーと共通する考えです。当然、色々な人がいますから、企業として意思を統一するためには、「自分はこういうことを目指す」ということを伝えなければなりません。前段でも出しましたが、そのための手段としてコミュニケーションの大切さも共通します。

五郎丸 勝利に対する態度や姿勢、組織力を上げていくことは、ラグビーもビジネスも同じなんだと思います。

——多様性といえは、「播磨喜水」という食品事業の新ブランドから手延べ麺も発売されましたね。

五郎丸 私もいたが、おもしろくてびっくりしました。

中島 姫路のまちの発展を考えた時に、そうめんという名物がありますが、食べることも買うこともほとんどありません。また、実際に作っているのは農家ですが、作業が大変でなかなか後継者がいません。そうめんは日本の大事な文化でもあるので、衰退しないよう、様々な食べ方の提案も含めて、そうめんの概念を打ち破り手延べ麺としてのブランドを築くことが、播磨喜水を出したきっかけです。

五郎丸 その「主体性」が私大切だと思います。日本のスポーツの世界は、指導

ナカシマの新たな取り組み「播磨喜水」

「播磨喜水(きっすい)」は、食品事業の新ブランドで主力は手延べ麺。麺作りは水が命だが、水に関する事業で成長してきたナカシマらしく、播磨の冷たく澄み切った水にこだわった。その水と選抜された小麦粉、天然の塩、熟練の職人の技術で作られた、高級手延べ麺である。そうめんよりひと回り太く、歯ごたえの良さ豊かな小麦の香りが特長だ。

播磨喜水 姫路店 ●姫路市綿町76こうしんビル1階
☎0120-507941 ☎10:00~18:00 ☎日・祝・年末年始除く
☎各線姫路駅から⑩10分。 http://www.harima-kissui.jp

ライフレインを支え
世界の人を幸せにしたい —— 中島社長

世界最高峰のリーグに挑み
ラグビーを文化にしたい —— 五郎丸選手

者の言うことがすべてで、選手は常に受身だったと思います。それでは歴史は変えられません。日本のプレッシャーを高め、ラグビーを文化にするために、我々選手が変わらなければなりません。日本代表もそのチームに取り組みました。その結果が、南ア戦のスクラム選択に現れたのだと思います。そうめんの食べ方にしても、中島社長が提案されるように、つゆにつけるという固定観念にとらわれる必要はなく、それぞれが色々な食べ方を考えようとするれば、日本の文化として世界に広まっていくと思えます。

中島 ナカシマもそうでした。主体性とプライドをもってこれから世界を目指します。ライフラインを支えることは、暮らしを潤わせ、人々を笑顔にすること。それはひいては新しい生活文化を創造することにも結びつくと信じています。

——最後にお互いにエールを。

企画・制作 日本経済新聞社
クロスメディア営業局